

編集後記

編集委員の任期もあと数ヶ月となりました。これまで学会誌がどのように企画・編成され、作成されていくのかを深く考えずにおりました。しかし毎回、委員会において議論および検討され、皆様の大変なご尽力によりなされていることがわかりました。私自身も企画案を立て、その苦勞を少しでも理解できたと思っています。貴重な経験をさせていただけたと感謝しています。

今回この編集後記を書く機会をいただきました。今年2010年の4月・5月には、非常に寒く雪がちらつく日があったり、そうかと思うと、気温が前日比+10度といった非常に暖かいあるいは暑い日があったりと、気温が大きく変化し、体調管理の難しい春となったように思います。金沢にいる我々にとっては、冬用タイヤを通常のタイヤに交換するタイミングに悩むような気候でした。

さて、暖かい休日には公園を散歩したくなります。金沢には兼六園があり、月1回県民には無料開放されます。兼六園には桜が多く植えられており、この時期に一気に咲き

乱れ、風景に大きな変化をもたらします。ご存知のように兼六園は、加賀前田家とその整備に力を注いできた庭園で、現在、日本三名園の一つとなっています。前田家は江戸時代、加賀百万石の力を軍事ではなく庭園、能、菓子や加賀友禅、金箔などの工芸に注いでいたそうです。結果的に、それらが現在の金沢の観光資産となり、金沢地区の経済の一翼を担っています。しかし一方では、当時軍事を充実できない事情があり金沢城は百万石の城とは思えないほど小さく、幕末から明治にかけての大きな変革期には加賀藩は出遅れていたとの評価もあるようです。

大河ドラマ「龍馬伝」では幕末における大きな変化が取り上げられています。現在、我が国の産業界もエネルギー・環境関係において大きな変化・革新を求められています。私が携っている熱プラズマ分野が、上記関係の大きな変化・革新にさらに寄与できるように、私自身がこれまでの少ない経験を活かしつつ大きく変化していく必要があるようです。(田中康規)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	本島 修	副 会 長	小川 雄一 藤山 寛	常務理事	中村 幸男 (総務委員長)
理 事	秋山 秀典 板垣 正文 (広告委員長) 坂本 慶司 寺井 隆幸 (編集委員長) 林 康明		疇地 宏 加藤 敬 笹尾眞實子 畑山 明聖 (広報委員長) 山崎 耕造	伊藤 早苗 (企画委員長) 近藤 光昇 (財務委員長) 佐野 史道 (出版委員長) 浜口 智志 (プログラム委員長)	
監 事	飯尾 俊二		松尾 慶一		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディター 寺井隆幸 (東大)

エディター 関子秀樹(九大)、田中雅慶(九大)、福山 淳(京大)、村上匡且(阪大)、室賀健夫(核融合研)

編集委員 石島達夫(名大)、市来龍大(大分大)、出射 浩(九大)、伊藤清一(広島大)、打田正樹(京大)、江原真司(東北大)、大谷寛明(核融合研)、神谷健作(原子力機構)、假家 強(筑波大)、菊池崇志(長岡技科大)、菊池祐介(兵庫県立大)、栗本祐司(シャープ)、近藤正聡(核融合研)、齋藤和史(宇都宮大)、坂本隆一(核融合研)、四竈泰一(京大)、高橋幸司(原子力機構)、田中康規(金沢大)、濱口真司(核融合研)、原 正憲(富山大)、東口武史(宇都宮大)、藤岡慎介(阪大レーザー研)、前原常弘(愛媛大)、三浦英昭(核融合研)、三宅弘晃(東京都市大)、宮本光貴(島根大)、森 道昭(原子力機構関西)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第86巻第6号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jpsf.or.jp URL: http://www.jpsf.or.jp/ 定価1,365円(本体1,300円)

印刷 株式会社荒川印刷

2010年(平成22年)6月25日

本誌に掲載された寄稿等の著作権は(社)プラズマ・核融合学会が所有しています。

編集委員会開催日について 当学会誌の編集委員会は原則として、毎月第1火曜日に開かれています。但し、都合により変更になる場合があります。